

ロパク

チア チャン

假唱

Jiǎ Chàng

Lip-sync

猛々しい太鼓の演奏で始まった北京五輪の開幕式は、雄大豪壮なプロローグであった。そして、9歳の少女が赤のドレスで登場し、中国の五星紅旗を前に独りで「歌唱祖国」を歌い上げた。硬軟両様のパフォーマンスは、あの世界的な映画監督、張芸謀（チャン・イーモウ）らしい設計で、中国の総力を結集した世紀のセレモニーであったに違いない。しかし、9歳の少女の歌唱は実は別人の歌であったことが明らかになり、その後物議を醸している。

このほど、中国の文化部（省に相当）は歌手が公演で偽りの唱歌をしたり、録音済みの曲を生演奏のように見せたりすることを禁止する規定を公表した。規定文に盛り込まれた中国語は「假唱（チア チャン）」となっており、「假」は日本語の「仮」の字に相当する。偽りの唱ということで、「偽唱（ウェイ チャン）」という言い方もある。英語の「...-sync」は **synchronization**（同期化）の略で、「Lip-sync」が一般的にいわれるロパクの意になる。いずれも、ネット上では北京五輪の開幕式についてこれらのキーワードが飛び交っており、ロパクがいかに波紋をよんでいるかであろう。

中国では歌唱による売上が23億元（約333億円）になり、全体の文化事業の3割を占めている（2007年）。「ロパク」禁止令はいまに始まったことではない。以前からその規定があったのだが、五輪の開幕式の問題を受けて改めてお触れを出し、偽装した歌手、芸術団に対しては名前を公表し、2年以内にまた行った場合は免許取消になるとした。中国はこうした文化事業の団体、歌の個人について免許制になっているのである。

人々に感動をもたらす歌曲の世界でも、国家の統制にあるのが社会主義中国である。しかし、ブランド商品の偽物が氾濫するお国柄のこと、唱歌でも偽物があるとは、この国で信じることの難しさを改めて思い知らされた。

（マーティーン）